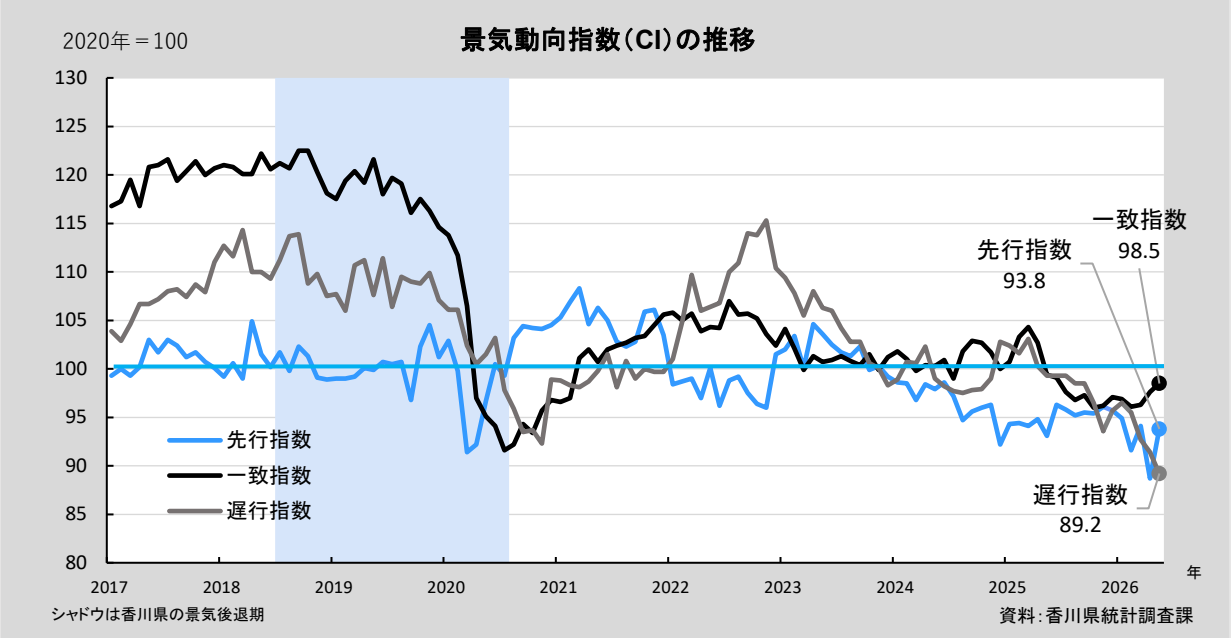
香川県内経済の動き　　2026.6 月～7 月

概況	持ち直している。
個人消費	緩やかな増加基調にある。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	持ち直しの動きがみられる。
生産活動	横ばい圏内の動きとなっている。
雇用情勢	持ち直しの動きに弱さがみられる。
貿易	輸出、輸入ともに増加している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数（かがわ CI）　　一致指数　3 カ月連続上昇



景気の現状をみると、6 月の CI 一致指数は 98.5（前月比+0.9 ポイント）と 3 カ月連続で上昇。CI 先行指数は 93.8（同+5.1 ポイント）と 2 カ月ぶりに上昇。CI 遅行指数は 89.2（同▲2.2 ポイント）と 4 カ月連続で下降。

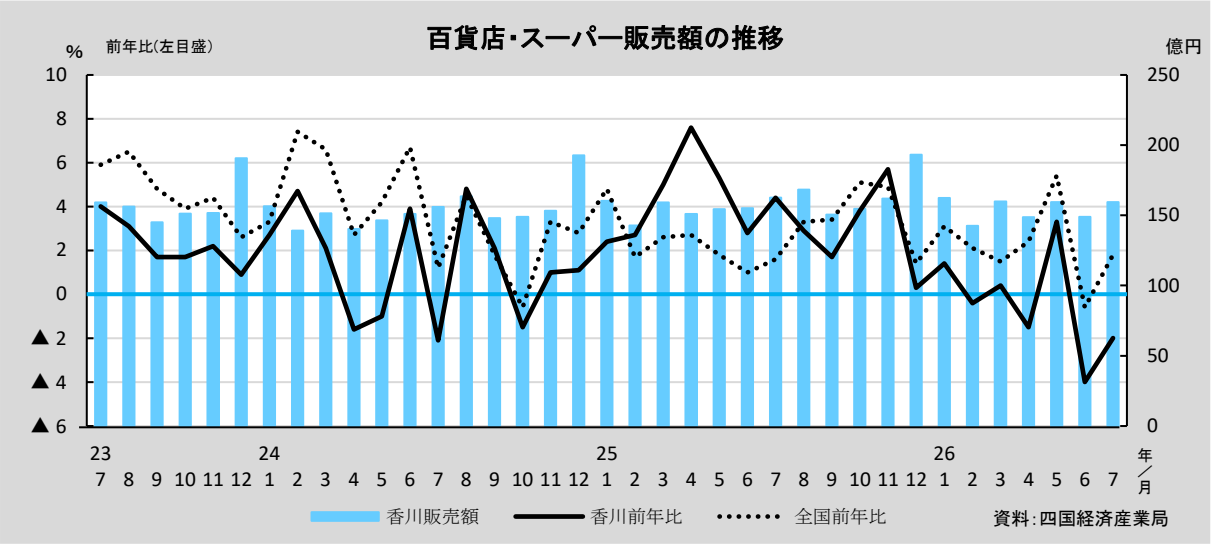
景気の現状を示す一致系列の個別指標では、鉱工業出荷指数、建築着工床面積等がプラスに寄与し、3 カ月連続で上昇となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用景気指標	1 新規求人数	1.05	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.90	1 常用雇用指数	▲ 0.03
	2 乗用車新車登録台数		2 有効求人倍率	0.55	2 有効求職者数	1.17
	3 鉱工業在庫率指数	2.03	3 所定外労働時間指数	0.26	3 消費者物価指数	0.11
	4 新設住宅着工戸数	1.34	4 鉱工業生産指数	▲ 0.12	4 家計消費支出	▲ 1.42
	5 金融機関貸出残高		5 鉱工業出荷指数	1.03	5 鉱工業在庫指数	▲ 1.14
	6 消費者態度指数	0.78	6 建築着工床面積	1.02	6 法人事業税調定額	▲ 0.72
			7 百貨店･スーパー既存店販売額	▲ 0.91	7 第3次産業活動指数	▲ 0.09

個人消費　　緩やかな増加基調にある

●百貨店・スーパー販売額

2カ月連続減少 ⬇

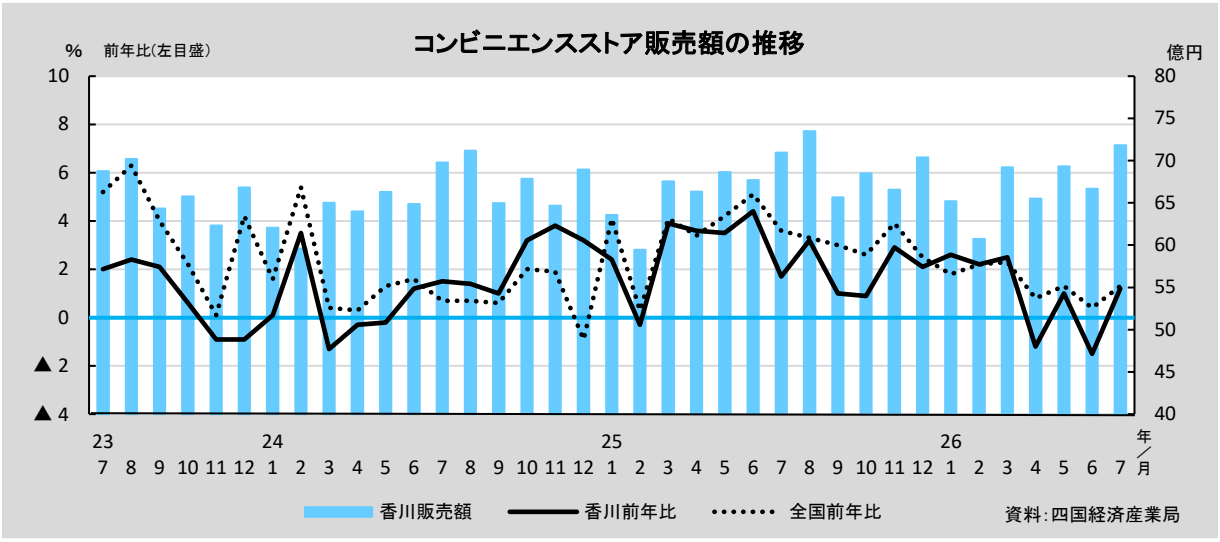


2026/7月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(百万円)	953	611	11,989	29	73	689	1,599	6	15,949
前年同月比(%)	▲ 4.0	▲ 5.9	▲ 1.9	64.3	39.8	▲ 6.8	0.3	8.0	▲ 2.0

7月の百貨店・スーパー全店（89店）の販売額は159.5億円で、前年同月比▲2.0%と2カ月連続で減少した。「飲食料品」は飲料やアイスクリームなどの夏物商材が伸び悩んだことに加え、米の前年需要増の反動減がみられ同▲1.9%、「家庭用品」は行楽商品が苦戦し同▲6.8%、「衣料品」は紳士服・婦人服ともに動きが鈍く同▲4.0%と前年を下回った。

●コンビニエンスストア販売額

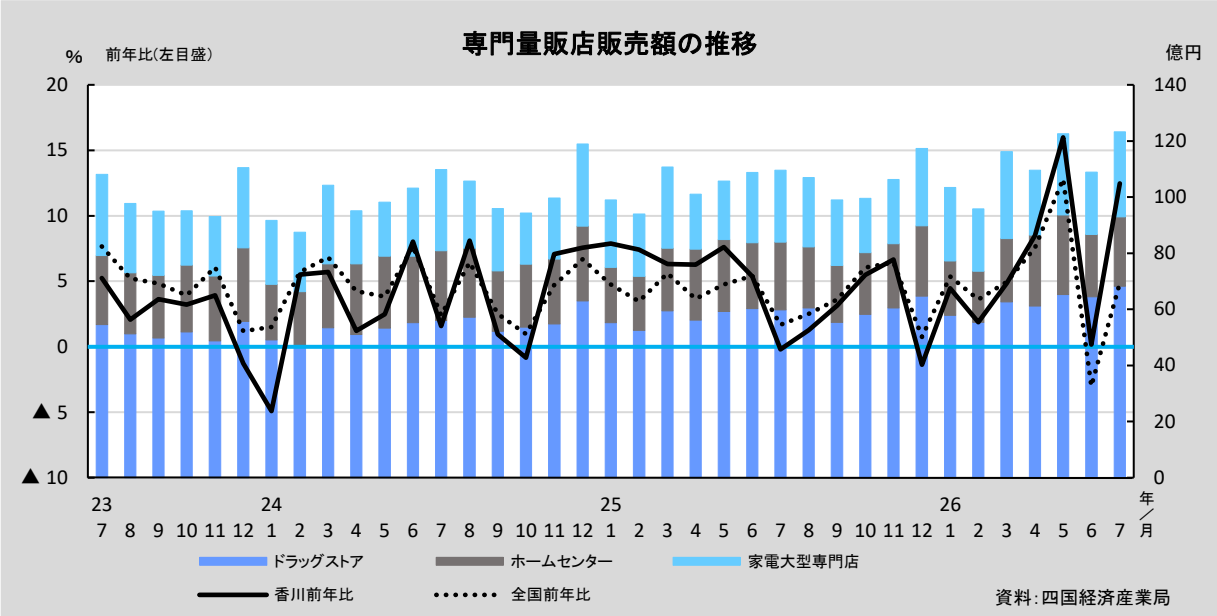
2カ月ぶり増加 ⬆



7月のコンビニエンスストア全店（408店）の販売額は71.8億円で、前年同月比+1.2%となり、2カ月ぶりに増加した。

●専門量販店販売額

7カ月連続増加

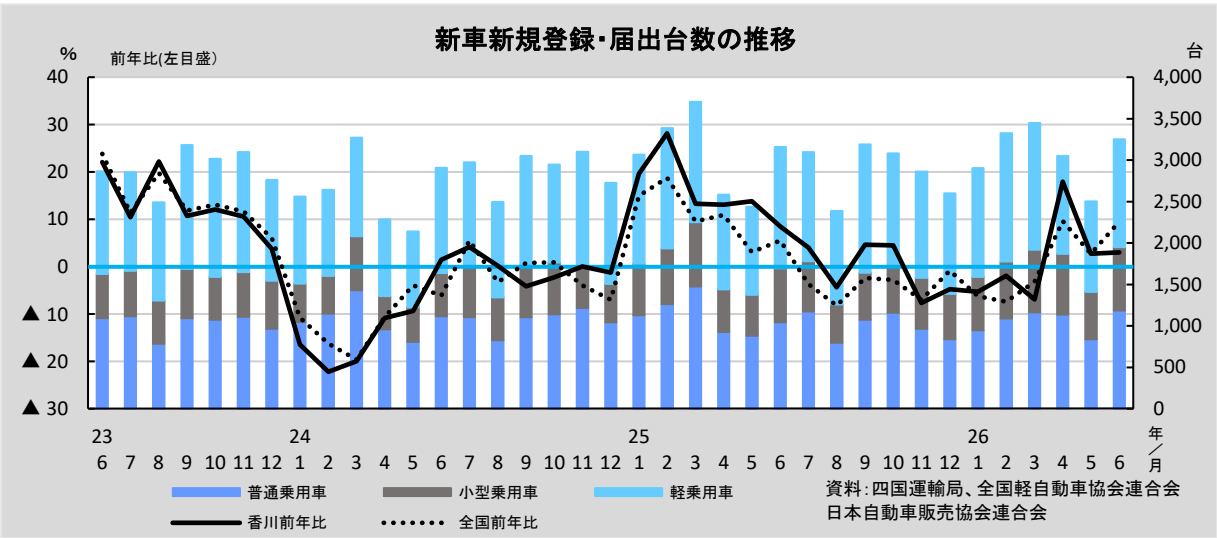


7月の専門量販店全店（245店）の販売額123.3億円で、前年同月比+12.5%と7カ月連続で増加した。

業態別にみると、家電大型専門店（27店）の販売額は30.3億円で前年同月比+18.2%となった。ドラッグストア（173店）の販売額は、68.2億円で同+14.2%となった。ホームセンター（45店）の販売額は、24.7億円で同+2.2%となった。

●新車新規登録・届出台数

3カ月連続増加



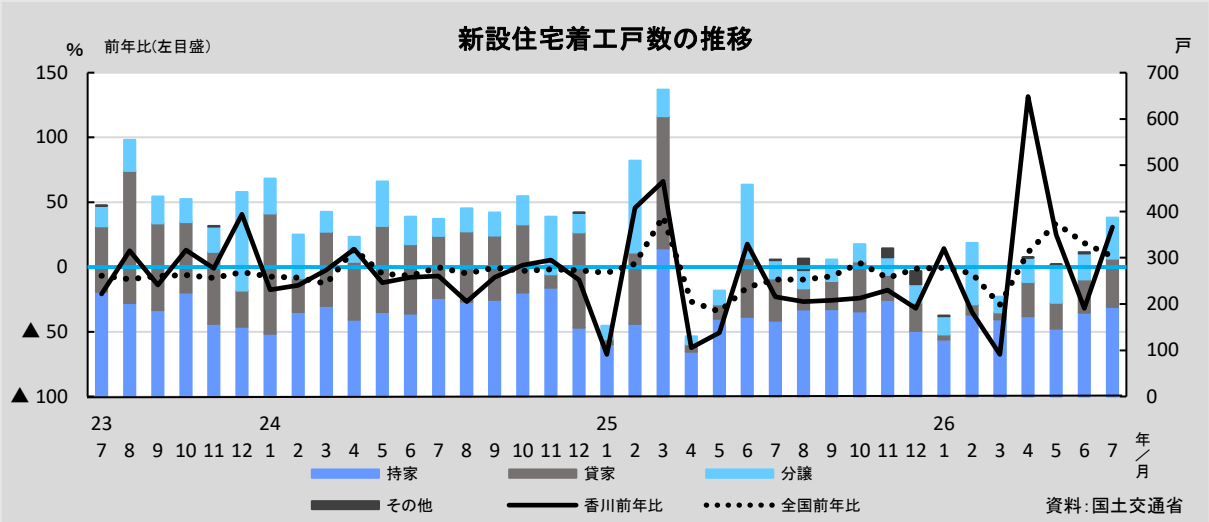
6月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は3,254台で、前年同月比+3.0%と3カ月連続で増加した。

車種別にみると、普通乗用車は前年同月比+13.7%、小型乗用車は同+17.3%、軽乗用車は同▲10.9%となった。

住宅投資　　低調に推移している

●新設住宅着工

2カ月ぶり増加 ⬆

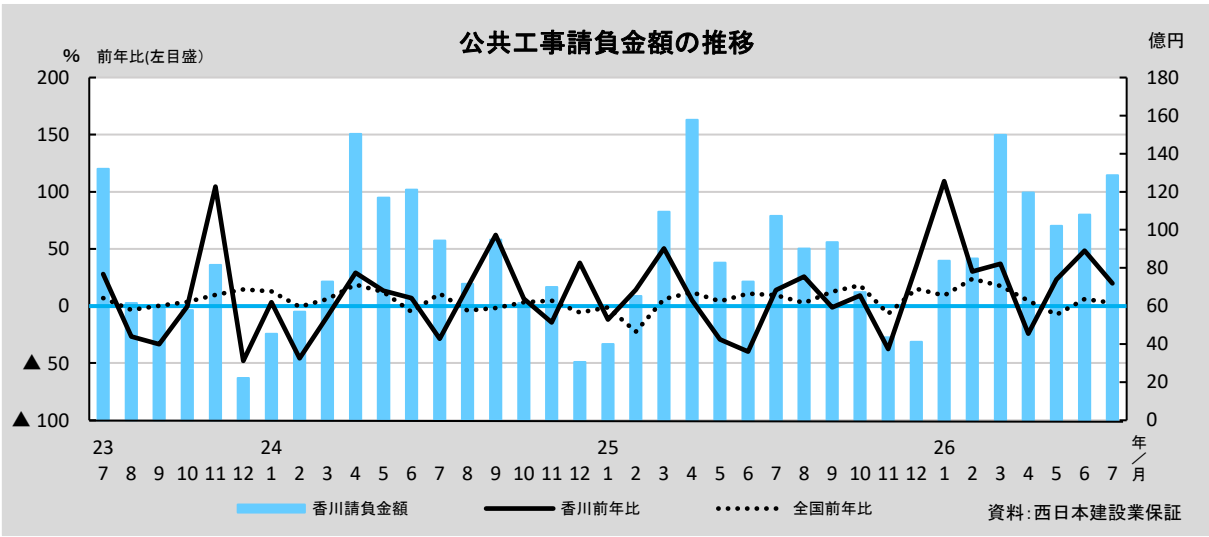


7月の新設住宅着工戸数は387戸で、前年同月比+30.7%と2カ月連続ぶりに増加した。利用関係別にみると、持家で前年同月比+18.3%、貸家で同+14.3%、分譲住宅で同+122.5%となった。

公共投資　　持ち直しの動きがみられる

●公共工事請負金額

3カ月連続増加 ⬆

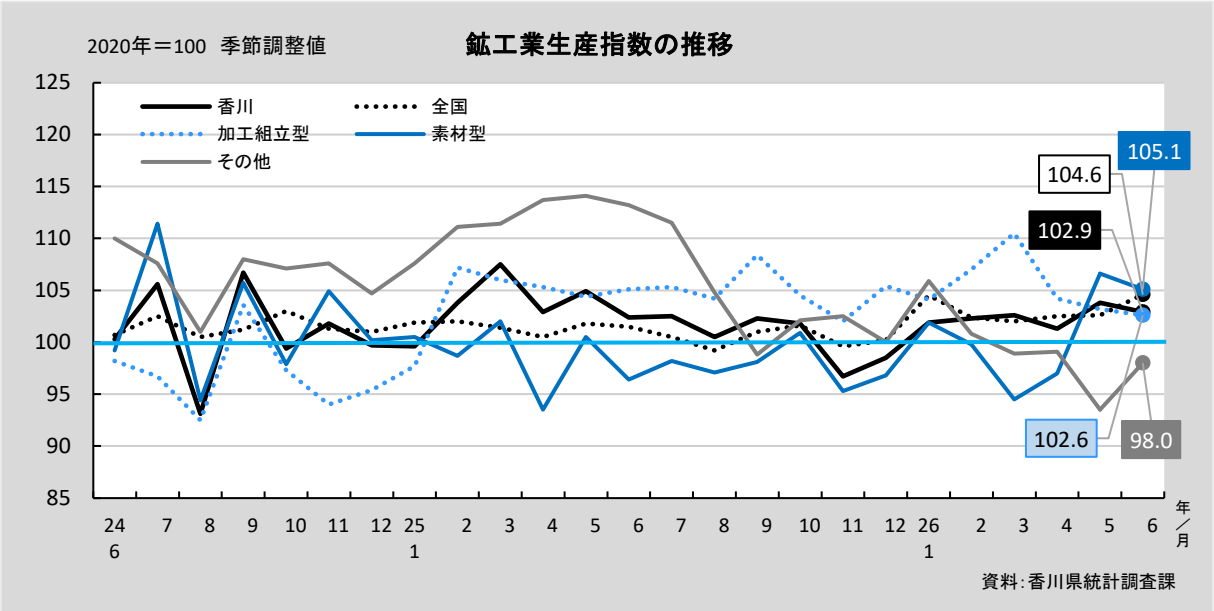


7月の公共工事請負金額は128.8億円で、前年同月比+19.9%と3カ月連続で増加した。発注者別にみると、国・独立行政法人等で前年同月比+176.3%、県で同+40.0%、市町で同▲34.7%となった。2026年度（2026.4月～7月）の累計では前年同期比+8.9%と増加している。

生産活動　　横ばい圏内の動きとなっている

●鉱工業生産指数

2カ月ぶり低下



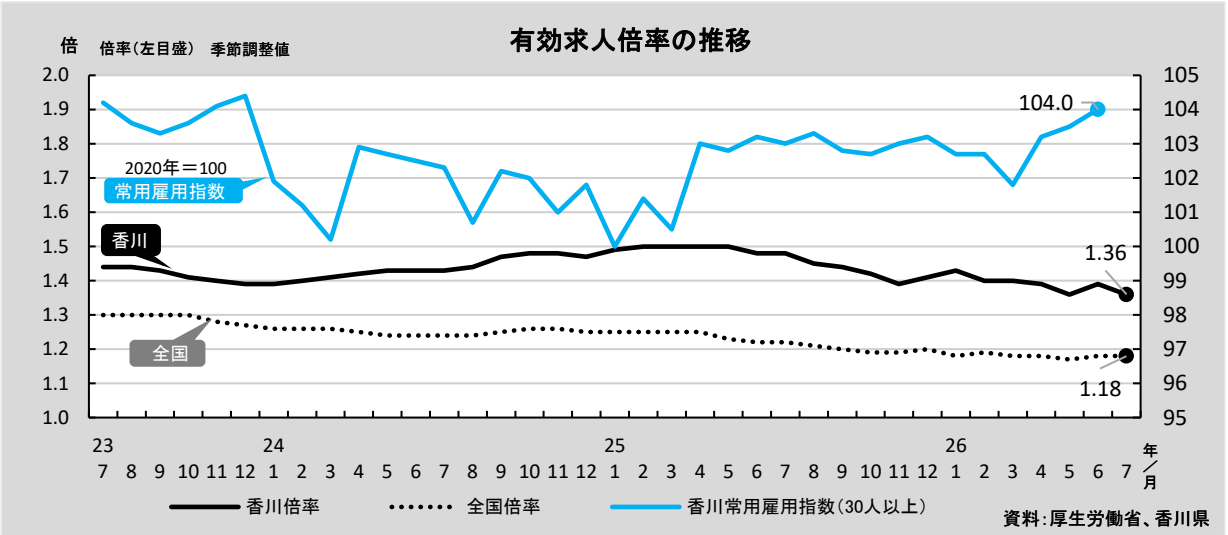
6月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は102.9（前月103.8）となり、2カ月ぶりに低下した。

業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比▲14.4%、加工組立型の汎用・生産用機械工業（建設用クレーンなど）は同▲9.5%と低下した。一方、素材型のプラスチック製品工業（フィルム・シートなど）は同+26.4%と上昇した。

雇用情勢　　持ち直しの動きに弱さがみられる

●有効求人倍率

2カ月ぶり減少



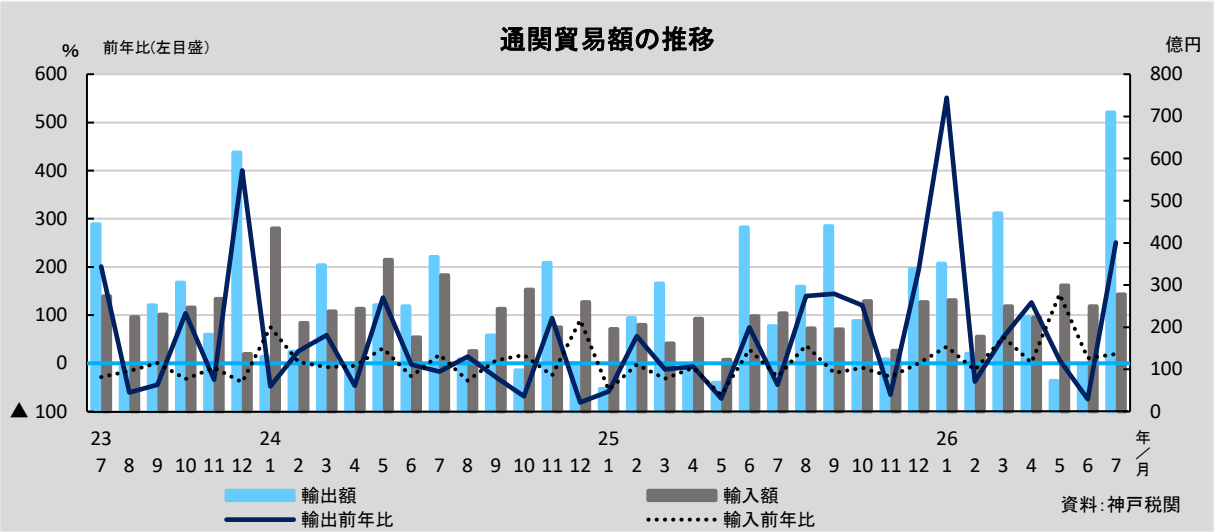
7月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.36倍（全国10位）と前月から0.03ポイント下回った。

新規求人（原数値：前年同月比）は、医療,福祉、卸売業,小売業、学術研究,専門・技術サービス業等で増加となり、全体で+4.2%と3カ月ぶりに増加した。

6月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、104.0となり、前年同月比+0.8%と17カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.25
事務的職業	0.58
販売の職業	2.14
サービスの職業	2.77
生産工程の職業	2.23
輸送・機械運転の職業	2.53
建設・採掘の職業	6.27
運搬・清掃・包装等の職業	1.02

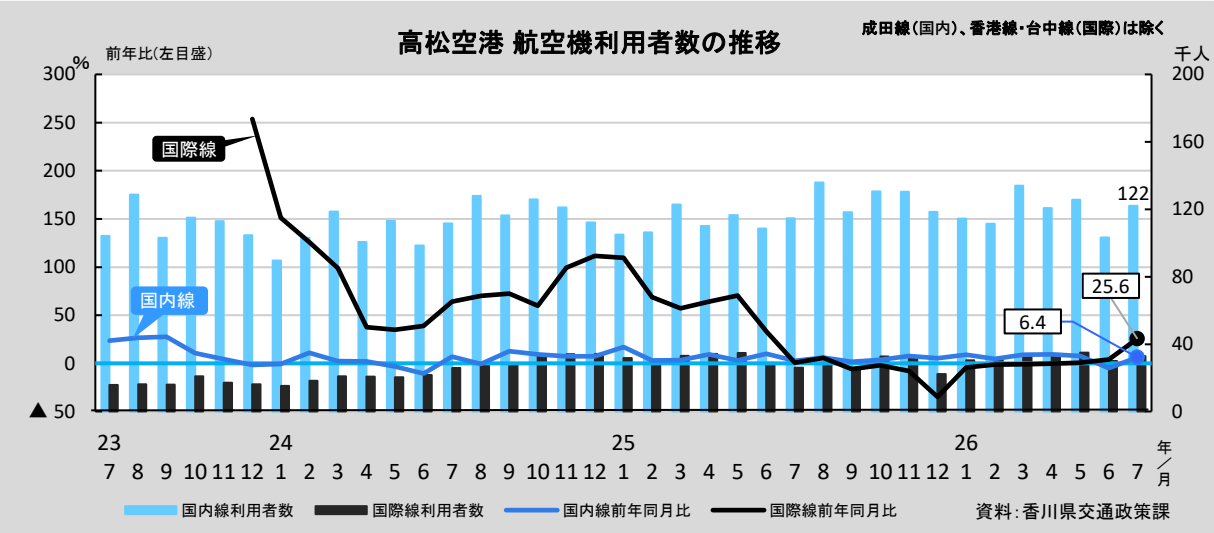
貿　易　　輸出、輸入ともに増加している



7月の輸出額は前年同月比+250.9%の709.6億円、輸入額は同+19.1%の277.9億円となり、差し引き431.7億円の出超となった。輸出は貨物船輸出額が前年同月比4.6倍の645億円となり増加に寄与した。輸入は前年ゼロだった液化天然ガス輸入額が72億円となり増加に寄与した。

交　通　　国内線は2カ月ぶり増加、国際線は3カ月連続増加

●高松空港旅客輸送実績

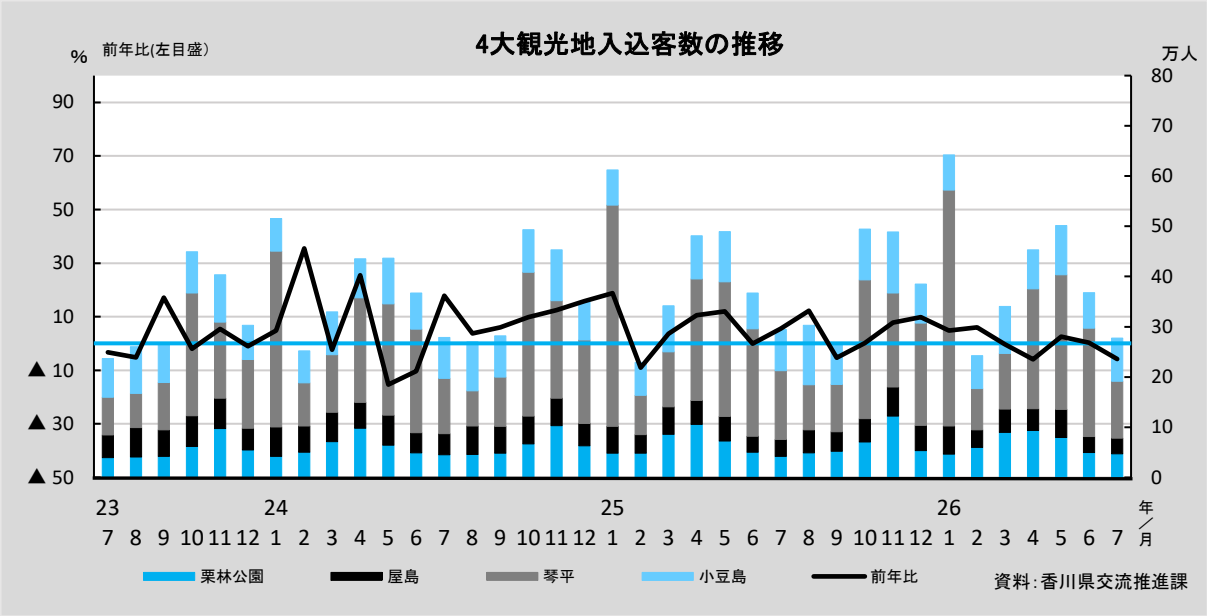


7月の航空機利用者数は、国内線（羽田・那覇線）が122,017人（前年同月比+6.4%）となり、2カ月ぶりに増加した。羽田線は112,807人（同+6.2%）、那覇線は9,210人（同+8.6%）となった。

国際線は、ソウル線19,509人（同+25.0%）、台北線8,655人（同+53.2%）、釜山線4,669人（全増）で、合計32,833人（同+25.6%）と3カ月連続で増加した。

観　光　　持ち直しの動きが続いている

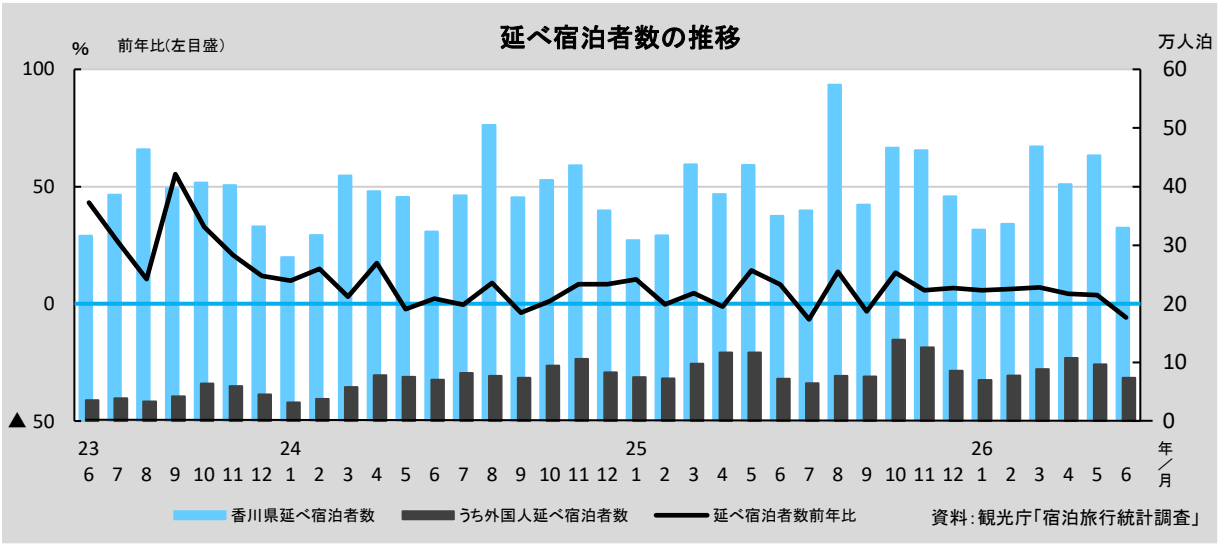
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		合計	
7月（人）	前年同月比	46,786	12.4%	31,403	▲7.0%	113,000	▲17.5%	86,251	5.2%	277,440	**▲5.8%**
1～7月累計（人）		465,290	3.0%	299,811	▲2.5%	1,499,000	0.7%	560,929	▲1.0%	2,825,030	**0.4%**

7 月の主要観光地の入込客数は、前年同月比▲5.8%と 3 カ月ぶりに減少した。栗林公園は前年同月比+12.4%、小豆島は同+5.2%と増加した。一方、屋島は同▲7.0%、琴平は同▲17.5%と減少した。1～7 月の累計では前年同期比+0.4%と増加を維持している。

●延べ宿泊者数



6 月の延べ宿泊者数 329,890 人泊で、前年同月比▲5.8%と 9 カ月ぶりに減少した。うち、外国人延べ宿泊者数は 73,540 人泊となり、前年同月比+1.7%と 4 カ月ぶりに増加した。